

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーは世界をつなぐ

ROTARY CONNECTS THE WORLD



ロータリーの輪を今

RI会長 マーク・ダニエル・マローニー 2019～2020

富津中央RC会長 平川 恵敏

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.2599 第18回例会 2019. 11. 21 晴

点 鐘：平川恵敏 会長

進 行：岡田良弘 SAA

ソング：我らの生業

お客様：鈴木裕士様（金谷ストーンコミュニティ）

星野宏子様（ ” ” ）

での海産物を中心にした美味しい食事を頂き、帰りにお土産店に寄って6時過ぎに帰ってまいりました。お天気も大変よく、車内ではお酒も進んでよい気分で行けました。全員無事に帰って来てとてもよかったです。

また、11月16日(土)情報研修会は、渡辺哲夫会員と玉井会員の発表で我がクラブは大変素晴らしいとお褒めの言葉を頂きました。

特に、割烹「いち川」さんの美味しい例会食を頂いてみたいと言われました。ぜひ、メーキャップにおいて下さいと言っておきました。

本日の6時より指名委員会を開きますので宜しくお願い致します。また、例会終了後理事会を開催いたします。理事の方はお残り下さい。

### 会長挨拶

平川恵敏 会長



皆様今日は。本日のお客様を紹介いたします。ザ・フィッシュの代表取締役の鈴木裕士様です。鋸山復興プロジェクトを発足されました市民団体「金谷ストーンコミュニティ」の説明にいられました。後ほどご挨拶をお願いいたします。

元塩山ロータリークラブ会員の田辺重機さんよりお手紙と災害のお見舞金を頂きました。この扱いについては、理事会で検討いたします。

第2回米山功労者に、石渡鋼会員、高橋裕之会員、榎本守男会員の3名がなられました。

11月10日(日)の茨城県那珂湊への旅。途中で鹿島神宮に寄っておごそかな気分になり、那珂湊

### 幹事報告

高橋裕之 幹事



1. 米山学友会&ローターアクト&ロータリー財団学友会忘年会のお知らせ受領。

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3  
いち川旅館 Ichikawa ryokan  
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,  
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178  
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>  
Mail [home@futtsuchuo-rotary.org](mailto:home@futtsuchuo-rotary.org)



石渡委員長、榎本カウンセラーに渡します。

2. 青少年交換オリエンテーション(第2回)  
& 帰国報告会の案内受領回覧。
3. コーディネーターNEWS12月号受領回覧。
4. ハイライト米山Vol. 236号受領回覧。
5. 米山特別寄付金明細書受領回覧。
6. 地区大会信任状および選挙人選出のお願い  
受領回覧。
7. 風の便りVol. 5号受領回覧。
8. 会長幹事会終了後の懇親会費支払案内受領。
9. グローバル補助金活用の案内受領回覧。
10. 君津RCより例会変更のお知らせ受領。  
12/23(月) 18:00～家族忘年例会  
12/30(月)休会 定款第8条第1節c項
11. 第4回会長幹事会開催案内受領。  
12/9(月) 17:00～ レストラン菜心味
12. 本日18:00からの指名委員会は、会費3千円  
で、割烹いち川で開催いたします。
13. 木更津RCより例会変更のお知らせ受領。  
12/19(木) 18:30～家族親睦夜間例会  
12/26(木)休会 定款第8条第1節c項
14. 上総RCより会報受領回覧。
15. 第2回目米山功労者認定証3会員受領。  
石渡 鋼 榎本守男 高橋裕之

## 米山功労者証授与式

第2回米山功労者(米山記念奨学会)



功労者受賞者:石渡 鋼会員・榎本守男会員・  
高橋裕之会員

ご協力を！ 「房総のシンボル「鋸山」を復興し、  
喜びあふれる山へ」

鈴木裕士 様



鋸山復興プロジェクト「台風15号で被災した鋸山を助けたい！」房総のシンボル「鋸山の復興」にご協力をお願いします。

鋸山復興プロジェクト公式クラウドファンディングを開設しました。

プロジェクト名:「台風15号で被災した鋸山を助けたい!鋸山復興プロジェクト」

開設期間:2019年11月8日～12月26日まで

目標金額:300万円(鋸山登山道復旧・整備費用)

星野宏子 様



2019年9月8日、9日の台風15号の影響で、房総のシンボル「鋸山」が甚大な被害を受けています。年間90万人を超える登山客に愛され、2018年日経新聞では「次に外国人が目指す日本の観光スポットディーブジャパンランキング」にて全国第二位選出を受けた「鋸山」が危機的状況にあります。今なお手つかずの無数の倒木や土砂崩れで登山道が危険な状態になっている中で被災直後から多数の登山客が訪れておりますが、現在も止む無く入山禁止の状態が続いています。登山道復旧にむけ、

公的機関へ支援要請を働きかけているものの今だスケジュールが立っていないのが現状です。私たち金谷ストーンコミュニティは、鋸山の保護、保全、普及を目的に10年にわたり学術的研究調査を進め、鋸山と共に歩んで参りました。令和元年の今年、地元富津市と鋸南町とで鋸山を「日本遺産」への登録に向けて動き出した矢先の被災でした。被災後、SNS で拡散された山の被害状況を見かね、全国より、「鋸山を救うために何かできないか」とご支援のお声を受け、地元任意団体、「金谷ストーンコミュニティ」が「鋸山復興プロジェクト」を立ち上げました。本プロジェクトを受け皿に、公的機関をはじめ市民団体、民間団体の皆様と協力し合い、1日でも早い登山道の現状復旧、林道整備を進めてまいります。

## 卓話

山下 厚 会員



皆さん、こんにちは。本日はこういう卓話の機会を与えていただきましてどうもありがとうございます。

ご存知の方も多いと思いますが、昨年6月、長崎・天草「潜伏キリシタン」に関連する教会群と地域がわが国では22件目の世界遺産に登録されました。今となっては世界遺産登録もいささか乱発気味の感もありますが、この世界遺産に登録された長崎の僻地、今日的な言葉で言えばチョー田舎で生まれ、15歳まで暮らし、更に隠れキリシタンの末裔でもある私から、当事者の視点でキリスト教を軸にした世界とわが国の歴史についてお話をさせていただきます。

朝日新聞社の主催で大佛次郎の幅広い業績を記念して、亡くなった1973年に創設された大佛次郎賞という文学賞があります。

芥川賞を将来性のある高校生の文学賞、直木賞をある程度実績を積み、地歩を築いた30歳前後の青年男女の文学賞に譬えれば、大佛次郎賞は風格漂う、功成り名を遂げた大人のための文学賞だと私は思っています。2004年に、この第31回の大佛次郎賞を受賞したのが当時、千葉大学の美術史が専門の教授だった若桑みどりさんで、受賞作は『クワトロ・ラガッティ』という著作でした。今は集英社文庫になっていますが、上下巻で1000ページを超える大作です。

もう15年ほど前になりますが、私はこの本を読んで身が震えるような、全身に電気が走るような感覚を味わったことを鮮明に覚えています。クワトロ・ラガッティとはイタリア語で4人の少年という意味だそうです。この本の副題に「天正少年使節と世界帝国」とあるように、天正10年、1582年に九州のキリシタン大名と縁続きのキリシタンの少年4人、伊東マンショ、千々石ミゲル、中浦ジュリアン、原マルティノがローマ法王に謁見するために長崎を出て、ローマに向かい当時のローマ法王グレゴリウス13世に謁見し、8年後に日本に帰って来るまでの物語です。若桑先生はイタリア語、ラテン語、スペイン語、ポルトガル語等の語学力を駆使して、10年近くの歳月を費やしてこの物語を書きあげたということです。

話は逸れますが、東京大学教授をされた川端香男里(かおり)さんというロシア文学者がいますが、この方は川端康成さんの娘婿で若桑みどりさんの実の兄だそうです。お父さんも英文学者だったようですが、川端康成と一高・東大とクラスメイトだったことから、こういうご縁が出来たそうです。

話を戻します。コロンブスのアメリカ大陸発見が1492年ですから、1400年代には大航海時代とも言われたように、航海術もかなり進歩していたようです。しかし偏西風・風任せの帆船の旅ですから今から考えると当時の航海にはとてつもない時間がかかったそうです。なぜ派遣された少年が4人だったのか、クワトロ・ラガッティだったのか、それは途中で半分は亡くなるだろう、ということでスペアとして2人が追加されたといういきさつがあるようです。当時の長い船旅はまさに命がけだったのです。

因みにインド航路を発見したバスコ・ダ・ガマの事例で言いますと、1497年ポルトガルのリスボンを出港し、2年2か月ぶりに帰還したのですが、当初147人いた乗組員が帰って来た時には55人だったそうです。屈強な船乗りの命を奪った病気の多くが壊血病でした。これは新鮮な野菜等に含まれるビタミンC不足が原因でおこる病気です。原因と予防法が解明され、この病気が完全に征服されたのは1930年代でした。

ところで、何故私が全身に電気が走るような感動を味わったかという、この本を読んで、世界史の中で、ヨーロッパで始まった宗教改革と言ううねりの影響を受けて宣教師が日本へやって来て、キリスト教を広め、それを受け入れた私の先祖たちがその後200数十年に亘る幾多の迫害をかい潜って命を繋いでくれたお陰で、今の時代に自分が生かされている、という事実を初めて心の底から実感したからです。中東からヨーロッパにかけては今から1000年以上前からキリスト教とイスラム教のあいだに長い長い激しい戦いがありました。イスラム教徒から聖地エルサレムの奪還を大義名分にして、キリスト教徒による第1回目の十字軍遠征が行われたのは1096年でした。以後8回にわたり1271年まで十字軍遠征は行われました。1096年と言えばわが国は平安時代で白川上皇が出家して白川法皇になった年だそうです。日本史上、大きな事件もなく、文字通り平安な時期だったようです。この時代、わが国にはヨーロッパの情報は入っていませんでしたから、こういう世界の動きとは無縁に日本の歴史は進んでいたのでしょう。

また、これとは別にレコンキスタ(スペイン語: Reconquista)も718年から1492年までに行われました。レコンキスタとはキリスト教国によるイベリア半島の再征服活動のことです。大西洋に突き出た、スペインやポルトガルが位置するイベリア半島は西暦710年頃にイスラム教徒の支配下に入ったそうですが、それから800年近くもキリスト教徒によるレコンキスタ・再征服活動が続いたということですね。

ナルシソ・イエペスのギター演奏で有名なタレガ作曲の「アルハンブラの思い出」という名曲がありま

すが、アルハンブラとは今のスペイン南部のグラナダにあるイスラム王朝時代の素晴らしい建造物群があるところ。ここにある建造物は当時のイスラム建築の粋を集めたもの、と言えるようなもので、これらはイベリア半島が嘗てはイスラム教徒の支配下にあったことを示す歴史的建造物群でもあります。

ところでネットで調べてみたら、スペインには世界遺産に登録されているものが現在44件あります。勿論アルハンブラと、そこにあるアルハンブラ宮殿も登録されています。

レコンキスタ、十字軍遠征等、長い長い戦いで一応勝利し、ヨーロッパ大陸のほとんどがギリシャ正教、ロシア正教など東方教会を含むキリスト教支配下になりました。

外敵がいなくなったと思ったら、次には身内同士の紛争が起きることはよくあることです。政治の世界でも、宗教の世界でも長期安定には墮落がつきものです。キリスト教内でも腐敗・墮落がはびこり始めました。腐敗・墮落の象徴とされたのが免罪符です。私たちは免罪符と学校で習ったような気がしますが、今は贖宥状(しよくゆうじょう)と言うことが多いようです。これは要するに罪を犯しても教会が発行する免罪符・贖宥状を買えば、罪を免れるということです。教会が信徒の信仰心を深めることより、金集めに熱心になったということです。これに黙ってはいられない勢力が異を唱えはじめました。宗教改革の始まりです。

マルチン・ルターやカルバンが新しい会派新教・プロテスタント教会を設立すると、旧教・カトリックは対抗処置としてイエズス会を作りました。1534年のことです。初めてわが国に来たフランシスコ・ザビエルが生まれたのは1506年ですから、ザビエル28歳の時でした。来日したのは1549年ですから、イエズス会が出来てまだ15年、イエズス会の働き盛りの宣教師ザビエルは43歳でした。

十字軍遠征、レコンキスタの後、しばらくはわが世の春を謳歌していたカトリック教会でしたが、一連の宗教改革運動の結果、ヨーロッパ北部はほぼプロテスタントの支配下に入りました。劣勢を強いられていたスペイン、ポルトガル、フランスなどのカトリッ

ク勢は、ヨーロッパ以外の地域でいかに信者を増やすかに腐心し、海外に目を向けたのです。そこで国家とカトリック教会が一体になって、白羽の矢を立てたのが南米、それに日本をふくむアジアでした。その先兵になったのが命知らずの、当時の超エリート知識人でもあったザビエルなどの宣教師だった、ということです。

宗教の教えである教義だけを以てしても、受け入れてくれることは難しい。そこでポルトガル船、スペイン船は宣教師とともに優れたヨーロッパの科学技術、知識、武器・弾薬等の貿易品等に乗せてわが国にやって来たのです。

そうして鹿児島の方津にやって来たのが1549年でした。(鉄砲伝来はもう少し早く1543年とされていますが、これも種子島に漂着した外国の船がもたらしたそうです。)

ザビエルは二人の日本人を含む8人で日本に上陸しています。日本にいたのは僅か2年3か月だったそうですが、その間精力的に布教活動をしていきますが、当然の如く仏教の僧侶との対立は激しかったようです。わが国でも仏教の僧侶が公然と妻帯つまり結婚が出来るようになったのは明治6年以降、信教の自由が許されてからだそうです。それまでは内密に妻帯した者もいたようです。いわゆる破戒僧ですね。そういうことに厳しいカトリックの宣教師にとっては、そういうことも含めて文句の一つも言いたいような状況だったのでしょう。イエズス会だけで150名、ほかにフランシスコ会、ドミニコ会、アウグスチノ会の宣教師を含めれば約300名の宣教師が来日、布教活動をしたのです。後のこととなりますが、豊臣秀吉の女性関係の行状に対しても厳しい目を注いでいたことが後に関係悪化の一因とも言われています。

今もカトリックの僧侶はわが国では神父と呼ばれ独身を貫きますが、プロテスタントでは牧師とよばれ妻帯が許されています。

カトリック教の布教の過程では色々な事件もあつたようです。長崎県の大村藩内だけではなく、キリシタンが寺や神社を略奪、破壊、焼き討ちした事件も発生しています。大村藩内ではキリシタン大名で

あつた大村純忠のお墨付きで行われた行為で、指示したのは宣教師でした。このころ私の先祖を含めて大村藩領民は約5万人、驚くことに領民の多くは殿様から強制的にキリシタンへ改宗させられているのです。一度に2000人も3000人も洗礼を受けることなど、通常出来るはずがないですよ。また当時多くの領民が非識字者で字が読めない、当然貴重で手にすることは難しかった聖書も読めない状況の中でキリスト教の教義を十分に理解することなく洗礼を受けた、ということが考えられます。こういうことで一時期は当時のわが国人口の約4%、37万人から50万人の信者数になったそうです。現在のわが国のカトリックの信者数は人口の0.3%ほどで約42万人、当時の人口は1200万人ほど、それから10倍ほど人口が増えているにも拘らずカトリックの信者数は増えていないというのが現実です。

さらに驚くことに、キリスト教への改宗に抵抗する領民に対しては迫害した事実もあるそうです。残念なことに正しい、正しくないという以前に、多数者が少数者を苛めることは、洋の東西を問わず人間社会の中ではよくあることですね。隠れキリシタンも被害者という立場だけではなかった、という一時期があつたということです。

こういう状況の中でもキリシタン大名ばかりでなく織田信長、豊臣秀吉にとっても、宣教師を乗せてやってくるスペインやポルトガル船を通じて行いうわゆる南蛮貿易は莫大な富をもたらすことの他に武器・弾薬を手に入れるともありがたいものでした。鉄砲は種子島藩主が2丁を4000両で購入し、直ぐ翌年には国産品を作ることに成功しています。信長はそれを3000丁も買い集めていたそうです。結果的にキリスト教を受け入れることで戦国武将の戦い方も大きく変わりました。一番大きな恩恵を受けたのが信長だった、と言うことでしょう。

そういうことで宣教師の支援者でもあつた信長ですが、4人の少年使節がわが国を発って半年ほどで本能寺の変で死にました。そのあとの天下人であつた秀吉は信者数の急激な増加、キリシタン、宣教師の振る舞いに危機感を抱くようになり1587年、天正15年に切支丹・伴天連追放令を出します。少年

使節が帰国する3年前です。少年使節が帰国した時にはキリシタンを取り巻く状況がガラリと変わっていました。

秀吉にキリシタン、それにスペイン・ポルトガル両国に対する危機感をさらに募らせたのがサン・フェリペ号事件でした。これは暴風雨で土佐沖に漂着したスペインの船サン・フェリペ号の乗組員の一人が「カトリック教会が宣教師を派遣するのは日本侵略に向けての準備で、後に軍隊を派遣して植民地化するためだ」という主旨のことをしゃべった事件です。事実、こういう情報があったのです。また宣教師の中には日本に対し軍事攻撃をすべきだという意見書を本国に送った者もいたのです。恐怖心と憎しみを募らせた秀吉により、この事件の翌年1597年には最初のキリシタンと宣教師の大量処刑、キリシタン側からすれば26聖人受難が起きました。

そのあとはもうキリシタンへ苛烈な迫害の歴史が200数十年、明治維新を迎えてしばらく後まで続きます。大村藩領民の多くを強制的に改宗させたキリシタン大名大村純忠は少年使節が帰国する3年前に死去していたのですが、その息子喜前(よしあき、洗礼名サンチョ)は1605年には早々と棄教しました。キリシタンである私の先祖も含めた多くの領民は2階に上げられてハシゴを外されたのです。

1614年に秀吉が変わって天下人になった徳川家康はキリスト教禁止令を出します。大村藩領内でもさっそくキリシタン迫害が始まりました。

1637年にはキリシタン大名であった有馬晴信の領地で島原の乱が発生、領民の多くが切支丹でしたが、その殆ど37000人が殺されています。この事件がきっかけとなりわが国は鎖国に入りました。

島原の乱から3年後の1640年には信者であることを隠したキリシタンを炙り出すことが目的でもある宗門人別改帳と、民衆を必ずどこかの寺に登録させるという寺受け制度が始まりました。潜伏するキリシタンの息の根を止めるぞ、という徳川幕府の強い意志を感じます。

因みにクワトロ・ラガッティ、4人の少年のその後どうなったのでしょうか。

伊東マンショは司祭(宣教師、神父)になりましたが

43歳で病死。

千々石ミゲルは4人のうち唯一棄教したと言われていますが……。

中浦ジュリアンは司祭として活動していましたが、62歳の時、捕縛され逆さ吊りの刑で6日目に死亡。

原マルティノは司祭になりましたが、キリシタン・伴天連追放令が出たあとマカオに逃げ、そこで60歳で亡くなっています。

このような状況のまま200年近くが推移、キリシタンの歴史が動き出すのは幕末間近の1856年でした。浦上3番崩れの発生です。崩れと言うのは潜伏キリシタンが発見され逮捕されることを言うのですが、浦上1番崩れ、浦上2番崩れは嫌疑不十分と言うことで曖昧なまま検挙者を出さないで終えています。しかし浦上3番崩れでは浦上の隠れキリシタン組織の指導者を中心として15人が捕縛されました。しかし、長崎奉行所はキリシタン事件とはせず、異宗事件ーキリシタンとはっきり言えば大問題になるのでー一訳が分からないー宗教の事件ーとして曖昧にしてこの事件を処理したのです。幕府から責任を追究されることが怖かったのでしょうか。

さらに幕末が近づいた1858年、徳川幕府は英、米、仏、露、蘭との間に安政の修好通商条約ーこれは安政の5カ国条約ともいいますーを結びました。最初が6月9日の日米修好通商条約、最後9月3日に結ばれたのが日仏修好通商条約でした。これはわが国にとっては関税自主権がないなど不平等条約でしたが、わが国のキリスト教の歴史からみれば「日本長崎役所において踏み絵のしきたりは既に廃せり」という重大な条項を含んでいました。しかし、この条約でキリシタン禁令が解かれたわけではなかったのです。

国宝になっている大浦天主堂の建設にも尽力した有名なプチジャン神父という方がいますが、この神父が1863年に琉球王国の那覇を経由して長崎に赴任しました。次の年に大浦天主堂が竣工します。さらに次の年1865年3月17日、神父の長崎赴任の大きな目的でもあった信徒がついに発見されたのです。子どもを交えた10数名だったと言われています。しかし、これは宣教師に出会ったことで

自らが切支丹であることを明かしてしまった信徒側のフライングでした。まだキリシタン禁令は解かれていなかったのです。この年に五島崩れが発生しました。これは子どもを含む信徒50名ほどが虐殺される事件でした。翌1867年には浦上4番崩れが発生します。余命いくばくもない徳川幕府でしたが、キリシタンを見つけ出し、根絶やしにするという方針はそのままだったのです。この浦上4番崩れでは3千数百人が捉えられ、全国各地に流されました。

五島崩れの悲劇がプチジャン神父によってヨーロッパに伝えられたことで、わが国は各国から非難を受けました。そのことで明治政府はキリスト教を認めざるを得なくなったのです。外圧には弱かったです。そしてついに1873、明治6年2月24日、明治政府は太政官布告第68号によりキリシタン禁令の高札を撤去するに至ったのです。

キリシタン禁令が解かれたのち、3年半から5年を経て浦上4番崩れで全国各地に流された信徒が故郷に帰還したそうですが、和歌山に流された総員289名については詳細が分かっています。それによれば289人中改心帰還152名、不改心帰還52名、死亡96名、生児11名となっています。約半数が棄教、3分の1が死亡、6分の1が頑張りを通したということです。赤ん坊が11人生まれていたということはどう解釈すればいいのか分かりませんが、人間への希望を感じさせてくれます。

さて、200数十年に及ぶ潜伏期間を経て、明治6年に信教の自由を得たキリシタンですが、宣教師・神父がいる教会に帰属した信徒、従来通り隠れキリシタンを続けた信徒は概ね半々だったそうです。わが先祖はもう潜伏する必要がなくなった、迫害される恐れはなくなったにも拘わらず、従来からの信仰生活が続ける方を選びました。お上を信じ切ることが出来なかったこと、恐怖心を払拭できなかったことが大きな原因だったのでは、と思います。

色々な研究によって潜伏キリシタンの信仰の実態が明らかにされて来ていますが、どうもそれはキリスト教の教義、いわゆる聖書に書かれているような教義からは程遠いものに変容したものだったようです。宣教師という導き手がないまま聖書さえなく、

ただ口伝えだけの教えだけで200数年を経過すれば、初期の教義が変容することは容易に想像されます。

明治6年以降、表に出たキリシタンは熱意ある宣教師の元でカトリックの正しい教義を受容して行ったのでしょうか。しかし一方、明治6年以降も表に出なかった隠れキリシタンの信仰はどうだったのでしょうか。

隠れキリシタンの研究で有名な長崎純心大教授の宮崎健太郎さんによれば「表面的にはキリスト教に由来する部分もあるが中身は先祖崇拜が基本で完全に日本的である」、「キリストやマリアはオラシヨ(隠れキリシタンの祈りの言葉)の中に名前が出てくるだけで、どんな神なのかは理解されていると言いはない」ということです。

昭和2年生まれ私の父親は、私が生まれた地域では洗礼を受けた隠れキリシタンの最後の世代でしたが、私は父親から隠れキリシタンの教義、信仰に関することを全く伝えられていません。祖父、祖母からも何も伝えられていません。母親は日曜日には針仕事をしない、と言う隠れキリシタンに伝わる慣習だけには従っていましたが、宗教上の教義について教えてもらったことはありません。きっと教えるものがなかったのです。深い信仰に根差した信仰心が引き継がれていれば、教えるし伝えるはずですが。明治以降、私の先祖は浄土真宗のお寺の信徒であると同時に隠れキリシタンとして生きて来たようですが、時を経ず次第にお寺の信徒一つに移行したこともそれを裏付けていると思います。父親は檀家総代もやったようです。

ではどうして200数十年にわたる命をかけた潜伏が可能だったのかと思うと不思議でなりません。命を懸ける程のものだったのか、という疑問も湧いて来ます。今世界のカトリック信者13億人の殆どは生まれて直ぐ洗礼を受けます。大きくなって判断力がついてから、多くの宗教の中からいいと思うものを選んで信仰している訳ではありません。生まれながらのカトリック信者です。そのことを考えると200数十年に及ぶ潜伏を可能にした理由が分かるような気がします。初代こそ強制はあったと思われるもの

の宣教師のもとで煩悶しながらも自らカトリックの信仰に入ったはずです。しかし2代目、3代目以降は親から受け継いだものだから途中で投げ出すことはできないという義務感と、表に出れば待っているのは拷問死という死への恐怖心とが結びついたがゆえの潜伏継続ではなかったか、と思うのです。激しい弾圧が逆説的に隠れキリシタンという生き方を継続させるエネルギーになったのではないかと思うのです。隠れ続けることが生きること、になったのでは思えるのです。信仰、その教義に救いを求めていたとは両親や祖父母の生活を見て来た末裔の目からはとても思えないのです。ここには異論もあることでしょうか。

浦上4番崩れで捕らえられ、全国各地に流刑になったキリシタンが浦上の地に帰還し始めたのが1873、明治6年キリシタン禁令の高札が撤去された年でした。それから72年後、その浦上の上空にキリスト教のプロテスタントが多くを占めるアメリカより原爆が投下されました。帰還した信徒の孫やひ孫を含めた8500名のカトリック教徒が浦上の地で亡くなったということです。

明後日23日に来日するローマ・カトリック教会のフランシスコ法皇。広島・長崎も訪問されるということです。イエズス会出身では初めての法皇だそうです。前はポーランド出身のヨハネ・パウロ2世でしたが、ローマ法王の訪日はそれ以来38年振りになります。

私は宗教が担うべき役割で一番大きいものは世界平和への貢献だと考えています。長崎から広島から世界に向けてどんなメッセージが出されるのか、沢尻エリカさん関連のニュースの100倍注目しています。

## ニコニコ BOX

栗原典子 親睦担当部長

鈴木裕士 「さあ 行こう、金谷！」

神子 恒 //

石渡 鋼 \*結婚祝を頂いて。

山下 厚 卓話をさせて頂いて。

玉井百合子 女性親睦会に参加させて頂いて。

榎本守男 親睦旅行バスの後部座席でゆったり座

らせて頂きました。

鎌田良子 バス旅行!!初対面の多田さんに大変お世話になりました。

平川恵敏 親睦旅行楽しかったです。

(高橋裕之・榎本守男・神子 恒・岡田良弘・

渡辺哲夫)以上6名で昼食代の残金を。

栗原典子 親睦旅行ご協力有難うございました。

## 出席報告

神子勝美 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	38/35	23	12		65.71%
前回	38/35	20	15		57.14%
前々回	38/34	27	7		79.41%

## 理事会報告

高橋裕之 幹事

### 1. 11月のプログラム確認。

11/28:会員卓話(神子恒・相川会員卓話)

12/ 5:通常例会。岡元 誠会員入会式。

米山奨学生・ジャリル君来訪

12/26:忘年家族夜間例会

### 2. 金谷ストーンコミュニティに対して、災害支援として塩山 RC からの見舞金10万円にクラブ支出として20万円を加えて30万円を支援し、翌週から個人寄付を募る。

今日のランチ



はかりめ井